

農商工連携の経済的パフォーマンス評価法

技術の特徴

- ・農商工連携による商品開発で、連携関係の組み合わせによってどのくらいの利得が得られるか、目安となる指標(値)が得られる。
- ・農商工連携のネットワークにおいて、それぞれの企業・団体が持つ経営資源の重要性を推計し、企業・団体の加入や離脱がネットワークの経済的パフォーマンスにどのような影響を与えるのか予測するのに活用できる。

研究の内容

①ハブとなる企業・団体が、農・商・工と連携した際の利得を求める。

ハブ企業単独で商品開発した際の利得 (例：食品加工業者)  = 1 ハブ企業の利得 = 1	農業1と連携 一般的な原料を使った時の商品価格と比較  +  = 1.82 農業1と連携した際の利得 = 1.82	農業2と連携 一般的な原料を使った時の商品価格と比較  +  = 1.14 農業2と連携した際の利得 = 1.14	販売業者と連携 販売業者と連携しなかった場合の売上と比較  +  = 3.60 販売業者と連携した際の利得 = 3.60	一次加工業者と連携 一次加工業者と連携しなかった場合の売上と比較  +  = 1.45 一次加工業者と連携した際の利得 = 1.45
---	--	--	--	---

②農商工連携関係をGTYPEとして整理。GTYPEごとに利得を求める。得られた利得から、農商工連携による商品開発・販売で得られる売上を推計できる。

GTYPEと利得の求め方

(農商工連携の組み合わせがXの場合)

ハブ企業 農業1 農業2 販売業者 一次加工

     ←GTYPE

 + 
 + 
 + 
 + 
 利得
 1.82 + 0 + 3.60 + 1.45 = 6.86

連携	GTYPE (連携あり=1、なし=0)					利得	売上/ 販売期間 (千円)
	ハブ 企業	農業 1	農業 2	販売	一次 加工		
A	1	0	1	1	1	6.19	753
B	1	1	0	1	0	5.42	403
C	1	1	0	0	0	1.82	143
D	1	0	1	0	0	1.14	44

X	1	1	0	1	1	6.86	?
---	---	---	---	---	---	------	---

今後の展開

- ・農商工連携で最適な連携ネットワークを構築するためのシミュレーション・モデルの策定
- ・農商工連携を支援する組織・行政等に利用してもらうための実用化

参 考

- ・大西千絵, 森嶋輝也, 「ネットワーク分析を用いた農商工連携関係構築モデル」, 平成25年度日本農業経済学会論文集, pp.149-156, 2013
- ・大西千絵, 森嶋輝也, 「農商工連携の経済的パフォーマンス評価手法の開発」, 第77回九州農業研究発表会専門部会発表要旨集, p.128, 2014



農研機構
九州沖縄農業研究
センター



代表研究者： 大西千絵
所 属： 作物開発・利用研究領域
農業経営研究グループ

問い合わせ先： 096-242-7695 conishi@affrc.go.jp